

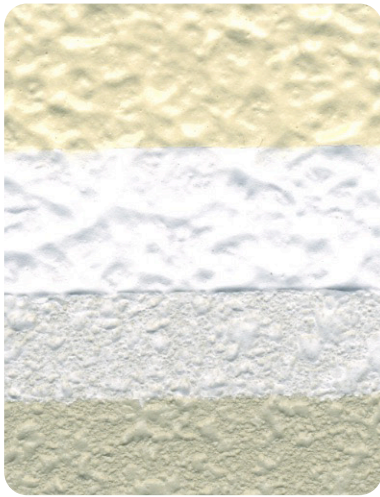
COOLな屋根には、
COOLな外壁を。



ALES COOL
+^{plus} WALL

外壁用 遮熱断熱工法
アレスクール プラスウォール

 KANSAI
PAINT



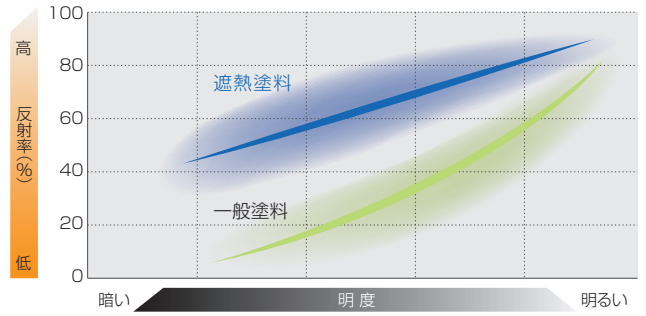
◀アレスクール
プラスウォール水性Si
AW-002

◀アレスクール
プラスウォール中塗

◀アレス水性エポレジン

◀吹付タイル

■塗膜の明度と日射反射率の関係



COOLレベル
日射反射率※

- ① ② ③ ④ ⑤ 80%以上
- ① ② 50~60%
- ① ② ③ ④ 70~80%
- ① 40~50%
- ① ② ③ 60~70%

※一般塗料との日射反射率の比較は、「塗膜の明度と日射反射率の関係」のグラフをご参照ください。

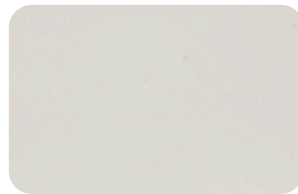
標準色ラインナップ



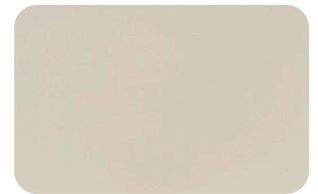
AW-001
COOLレベル
① ② ③ ④ ⑤



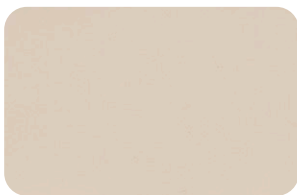
AW-002
COOLレベル
① ② ③ ④ ⑤



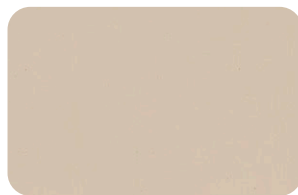
AW-003
COOLレベル
① ② ③ ④ ⑤



AW-004
COOLレベル
① ② ③ ④ ⑤



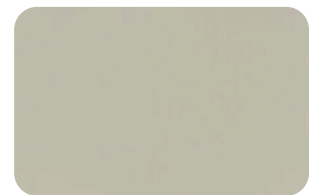
AW-005
COOLレベル
① ② ③ ④ ⑤



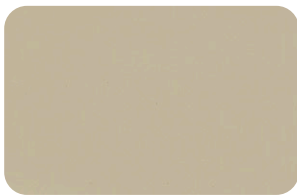
AW-006
COOLレベル
① ② ③ ④ ⑤



AW-007
COOLレベル
① ② ③ ④ ⑤



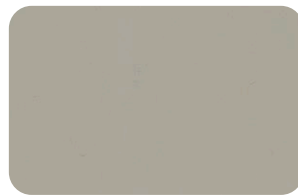
AW-008
COOLレベル
① ② ③ ④ ⑤



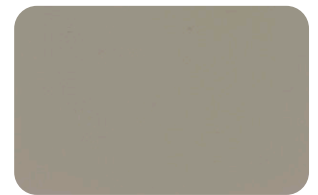
AW-009
COOLレベル
① ② ③ ④ ⑤



AW-010
COOLレベル
① ② ③ ④



AW-011
COOLレベル
① ② ③ ④



AW-012
COOLレベル
① ② ③ ④



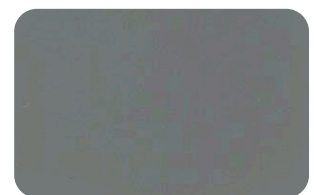
AW-013
COOLレベル
① ② ③ ④



AW-014
COOLレベル
① ② ③



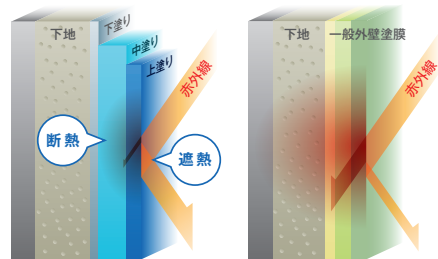
AW-015
COOLレベル
① ② ③ ④



AW-016
COOLレベル
① ② ③ ④

※この色見本は紙に塗装していますので、実際の色・ツヤが異なる場合があります。※塗料の種類により同じ色相でも色・ツヤが異なる場合があります。※広い面積に塗られた場合、実際の色よりも多少明るく見える場合があります。※色見本は経時劣化により変色していきますので、直射日光の当たる場所や高温多湿の場所には保管しないでください。※日射反射率は「JISK5602塗膜の日射反射率の求め方」に準拠し、水性エポレジン/アレスクールプラスウォール中塗り/アレスクールプラスウォール水性Siで日射反射率(近赤外線域)を実測しています。※日射反射率は下地の状態や塗装仕様、施工条件などにより多少の増減が生じます。見本帳の有効期限は2026年10月です。

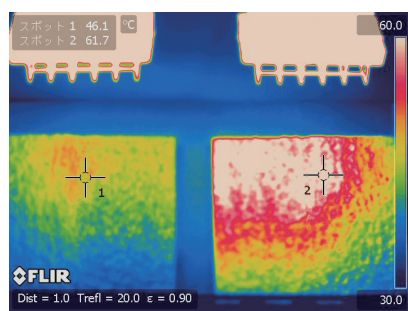
『遮熱』と『断熱』のWブロック効果で 人と建物にやさしい外壁に。



COOLな壁は 赤外線を反射する

遮熱効果とは、太陽光線（赤外線）を効率よく反射し、外壁の塗膜表面温度上昇を抑制することです。それにより素材の蓄熱を抑え、熱による素材の劣化を防ぎます。

■ ハロゲンランプ照射実験例（サーモグラフィ画像）

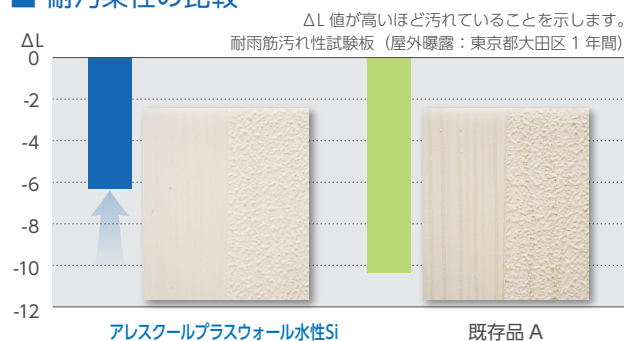


一般壁用塗料と「アレスクールプラスウォール」の塗板にハロゲンランプを照射して表面温度を確認しました。この実験では、表面温度で約15.6°Cの温度低減効果が確認できました。（塗色：AW-016）

COOLな壁は 低汚染で汚れにくい

緻密かつ強靱な塗膜形成技術で開発された防汚性能が建物の美観を維持します。また、汚れによる遮熱効果の低下を抑制し、性能の長期維持を図ります。グラフでは雨筋が発生していないことと色味の変化が少ないことが分かります。

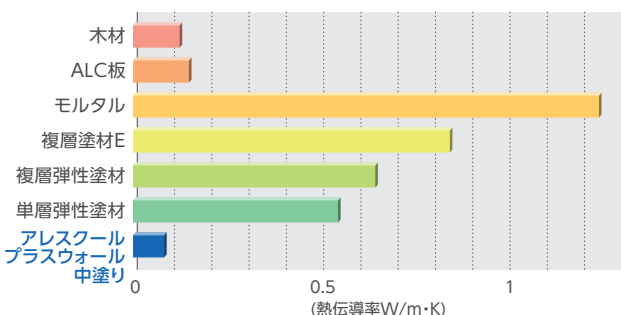
■ 耐汚染性の比較



COOLな壁は 熱を伝えにくい

特殊な成分を用い熱伝導率を小さくすることで、素材表面に蓄積された熱や外気からの熱を室内に伝えにくくします。従来単層弾性材と比べ熱伝導率約5分の1の断熱効果を発揮します。（当社比）

■ 熱伝導率の比較

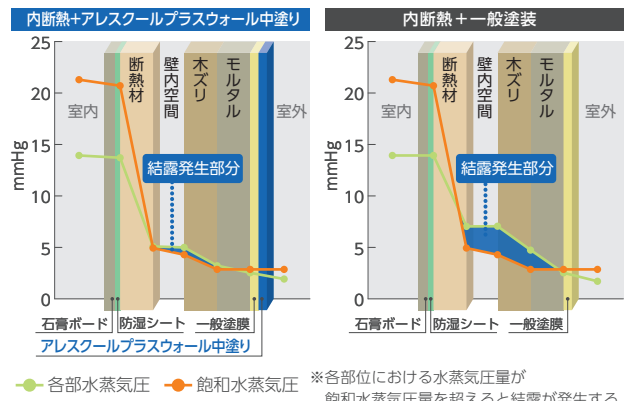


熱伝導率とは 熱の伝わりやすさを数値化したもので、熱伝導率の数値が小さいほど熱を伝えにくく断熱性が高いことを示します。

COOLな壁は 壁内結露を軽減する

構造木材を水分から守り様々な効果を発揮。壁内断熱材の含水によるズリ落ちの抑制や木部の腐朽、カビ・ダニやシロアリの発生などを軽減し、内断熱工法（RC造）や充填断熱工法（木造）の性能補強につながります。

■ 壁内結露の比較



■ 品名・容量

工程	品名	色相	光沢	容量
上塗り	アレスクールプラスウォール 水性Si	各色	有	15kg、4kg
中塗り	アレスクールプラスウォール 中塗り	白	つや消し	14L
下塗り	エコカチオンシーラー	乳白色	—	15kg
	アレス水性エポレジン	白	—	15kgセット（ベース12.5kg、硬化剤2.5kg）

アレスクールプラスウォール

- 下記仕様書の標準所要量は、被塗物の形状や素材・塗装方法・環境などによって増減することがあります。
- 吸い込みの著しい素材の場合、再度シーラーの増し塗りを行ってください。
- コンクリート、モルタル系地には、「マルチタイルコンクリートプライマー-EPO」、「アレス水性エポレジン」、「浸透形Mシーラー」も使用可能です。

■ コンクリート、モルタル系系地【5工程遮熱断熱仕様】

工程	塗料名・処置	塗装回数	標準所要量 (kg/m ² /回)	塗装方法	塗装間隔 (23℃)	希釈剤	希釈率 (%)
下地調整	新設	エフロ・レイタンス・ゴミ・汚れなどは、ワイヤーブラシ・サンドペーパー・ウエスを使用して除去し、乾燥した清浄な面にしてください。 ※コンクリートブロックのような吸い込みの著しい素材の場合、フィラーなどの下地調整が必要です。					
	塗替	劣化塗膜をケレン工具 (皮スキ・ケレン棒等) で完全に除去し、ホコリ・汚れ・チョーキング粉を高圧水洗で除去してください。 ※旧塗膜中の活膜部はサンドペーパー等で目粗ししてください。					
下塗り	エココチオンシーラー または アレス水性エポレジン	1~2	0.13 0.17	ハケ・ローラー エアレス	2時間以上7日以内	—	0 (無希釈)
		1~2	0.13~0.20 0.17~0.20	ハケ・ローラー エアレス	4時間以上7日以内	上水	0~10 10~15
中塗り	アレスクールプラスウォール中塗	2	0.70~1.00	多孔質ローラー	4時間以上7日以内	上水	0~5
		1 ベース吹き	0.80~1.10	タイルガン (口径6mm)			2~5
		2 パターン吹き	0.75~1.00	タイルガン (口径6~8mm)			0~3
上塗り	アレスクールプラスウォール水性Si	2	0.13 0.16	ローラー エアレス	2時間以上7日以内	上水	3~8

■ 窯業系サイディングボード【5工程遮熱断熱仕様】

工程	塗料名・処置	塗装回数	標準所要量 (kg/m ² /回)	塗装方法	塗装間隔 (23℃)	希釈剤	希釈率 (%)
下地調整	窯業系サイディングボードのクラック・ボード面の脆弱層のクラックなどは適切な処置を行なってください。劣化塗膜やチョーキング・汚れなどを高圧水洗にて除去し、乾燥した清浄な面にしてください。シーリングはシーリングメーカーの規定する期間養生させ、十分に硬化、乾燥していることを確認してください。						
下塗り	アレス水性エポレジン	1~2	0.13~0.20 0.17~0.20	ハケ・ローラー エアレス	4時間以上7日以内	上水	0~10 10~15
		2	0.70~1.00	多孔質ローラー			0~5
中塗り	アレスクールプラスウォール中塗	1 ベース吹き	0.80~1.10	タイルガン (口径6mm)	4時間以上7日以内	上水	2~5
		2 パターン吹き	0.75~1.00	タイルガン (口径6~8mm)			0~3
		2	0.13 0.16	ローラー エアレス			2時間以上7日以内

■ コンクリート、モルタル系系地【3工程遮熱仕様】

工程	塗料名・処置	塗装回数	標準所要量 (kg/m ² /回)	塗装方法	塗装間隔 (23℃)	希釈剤	希釈率 (%)
下地調整	新設	エフロ・レイタンス・ゴミ・汚れなどは、ワイヤーブラシ・サンドペーパー・ウエスを使用して除去し、乾燥した清浄な面にしてください。 ※コンクリートブロックのような吸い込みの著しい素材の場合、フィラーなどの下地調整が必要です。					
	塗替	劣化塗膜をケレン工具 (皮スキ・ケレン棒等) で完全に除去し、ホコリ・汚れ・チョーキング粉を高圧水洗で除去してください。 ※旧塗膜中の活膜部はサンドペーパー等で目粗ししてください。					
下塗り	エココチオンシーラー または アレス水性エポレジン	1~2	0.13 0.17	ハケ・ローラー エアレス	2時間以上7日以内	—	0 (無希釈)
		1~2	0.13~0.20 0.17~0.20	ハケ・ローラー エアレス			
上塗り	アレスクールプラスウォール水性Si	2	0.13 0.16	ローラー エアレス	2時間以上7日以内	上水	3~8

■ 窯業系サイディングボード【3工程遮熱仕様】

工程	塗料名・処置	塗装回数	標準所要量 (kg/m ² /回)	塗装方法	塗装間隔 (23℃)	希釈剤	希釈率 (%)
下地調整	窯業系サイディングボードのクラック・ボード面の脆弱層のクラックなどは適切な処置を行なってください。劣化塗膜やチョーキング・汚れなどを高圧水洗にて除去し、乾燥した清浄な面にしてください。シーリングはシーリングメーカーの規定する期間養生させ、十分に硬化、乾燥していることを確認してください。						
下塗り	アレス水性エポレジン	1	0.13~0.20 0.17~0.20	ハケ・ローラー エアレス	4時間以上7日以内	上水	0~10 10~15
			2	0.13 0.16			ローラー エアレス

施工上の注意事項

- ① 素地のアルカリ度はpH10以下、表面含水率10%以下(ケツ科学社製CH-2)、または表面含水率5%以下(ケツ科学社製Hi500シリーズ:コンクリートレンジ)の条件下で塗装してください。
- ② 塗替えの場合、旧塗膜の劣化が著しいときは、サンダー・ワイヤーブラシなどで脆弱な塗膜を除去し、高圧水洗を行い1日乾燥後、塗装をしてください。
- ③ 気温5℃以下、湿度80%以上、また、降雨、降雪、強風が予想される場合は、塗装を中止してください。
- ④ 気温0℃以下、40℃以上での塗料の保管は避けてください。
- ⑤ 本品は屋根への適用はできません。
- ⑥ 5工程仕様の場合、金属サイディング面及び弾性スタッコ面の塗替えには使用できません。
- ⑦ 旧塗膜がスタッコのような場合は、各工程の塗料を十分に塗り込んでください。
- ⑧ 下地補修部へ対しては、必ずシーラー塗装を行ってください。
- ⑨ 脆弱な下地などには浸透形Mシーラーを使用してください。
- ⑩ シーラーの吸い込みが著しい場合には、再度シーラーを増し塗りしてください。
- ⑪ 軽量モルタル、ALCパネル、高断熱型窯業サイディングおよび発泡ウレタンなどを使用した断熱工法などの「高断熱型外壁」を塗り替える際、旧塗膜が溶剤系アクリルトップである場合は蓄熱や水の影響、塗装後の環境などいくつかの条件が重なることで、塗膜のふくれが生じることがあります。旧塗膜をラッカーシンナー拭きして簡単に塗膜が再溶解する場合は、下塗りに「マルチタイルコンクリートプライマー-EPO」を塗装してください。
- ⑫ 開閉後、放置する場合には皮が張らないようポリエチレンシートなどを用いて、密閉してください。
- ⑬ 乾燥すると養生テープを剥がれにくくなりますので、塗膜が乾燥する前に養生テープを剥がしてください。乾燥後に養生テープを剥がす場合にはカッターなどでカットした後に、テープを取り外してください。
- ⑭ 汚れ、傷などにより補修塗料が必要な場合がありますので、使用塗料の控えは必ずとっておき、同一塗料、同一ロット、同一塗装方法で補修塗装をしてください。
- ⑮ ハケ塗りや補修塗料を行う際、ローラー塗りとの仕上り肌や希釈率の違いによる色相差が生じることがありますのでご注意ください。
- ⑯ 「アレス水性エポレジン」、「マルチタイルコンクリートプライマー-EPO」はベースと硬化剤がセットになっている2液形塗料です。ベース、硬化剤は正確に計量し、電動攪拌機を用いて、よくかき混ぜてから使用してください。また、ベース/硬化剤を混合後4時間以内で使用してください。夏場の場合は2時間程度で使用できなくなります。
- ⑰ サイディングボードに既に反り、欠落、変形が発生している場合には、サイディングボードを取り替える必要があります。
- ⑱ シーリング材とサイディングボードとの接合面に、剥がれ、ウキが認められる場合には、シーリング材を打ち直してください。
- ⑲ 「シーリング材」への塗装は極力避けてください。汚染や粘着、フリの原因となります。やむをえず塗装する場合には、ノンブリードタイプのシーリング材を用いることとし、「シーブラ」または「マルチタイルコンクリートプライマー-EPO」をバインダーとして挟むことで不具合を軽減することができます。
- ⑳ コンクリート、モルタル系系地には「エポMシーラー」も使用できます。

- ラベルやSDSに記載されている注意事項を守ってください。
- 詳細な内容については安全データシート (SDS) をご参照ください。

関西ペイント販売株式会社

関西ペイントホームページ
www.kansai.co.jp

北海道 TEL (0133) 64-2424 FAX (0133) 64-5757
東北 TEL (022) 287-2721 FAX (022) 288-7073
北関東 TEL (028) 637-8200 FAX (028) 637-8223

東京 TEL (03) 5711-8905 FAX (03) 5711-8935
中部 TEL (052) 262-0921 FAX (052) 262-0981
大阪 TEL (06) 6203-5701 FAX (06) 6203-5603

中国 TEL (082) 262-7101 FAX (082) 264-3285
四国 TEL (0877) 24-5484 FAX (0877) 24-4950
九州 TEL (092) 411-9901 FAX (092) 441-3339

※本カタログの内容については、予告なく変更することがありますのであらかじめご承知ください。

(23年10月10日PNA) カタログNo.717
頒布価格 1,500円(税込)